

■ 物質・デバイス領域共同利用・共同研究拠点

化学生命科学研究所は北大電子研、東北大多元研、阪大産研、九大先導研と協同して2010年度より「物質・デバイス領域共同研究拠点」を形成しています。本拠点は全国共同研究共同利用拠点としても認定されており、数少ないネットワーク型の代表的な拠点として特色ある活動を行ってきました。その主旨は、5研究所の研究資源を共有し、かつ、それぞれの得意分野や特徴を活用して、5研究所が対等に連結したネットワーク体制を組織することにあります。化学生命科学研究所は「物質組織化学研究領域」として、各種の分子組織体、生体材料、触媒、機能物質を中心に共同研究を先導しており、全国の国公立大学、工業高等専門学校、国立研究機関、企業等に所属する研究者、学生から公募を行い、第1期（2010～2015年度）と第2期（2016～2021年度）を通じ、この12年間で857件（5研全体：5,400件）の共同研究を推進してきました。また、東日本大震災・熊本地震等・災害被害の際には研究支援の復興サポート、感染症対策として機動的プロジェクトの公募を行い、それぞれの範疇であげられた成果は多数の共同研究論文、学会発表、特許として公表されています。

現在進行中の第3期では、拠点事業及び5研究所間のアライアンス事業「人と知と物質で未来を創るクロスオーバーアライアンス」を相互不可分の協同関係となるように再構築をし、滞在型「COREラボ共同研究」を継続しています。

本研究所はアライアンスプロジェクトの中では、「環境エネルギー物質・デバイス・プロセス」グループを担当し、他研究所と協力を行いながらこの分野の新たな研究を開拓しております。

本拠点は事業の継続性と発展性が高く評価され、2015年度の期末評価、2018年度の間評価、2021年度の期末評価では、最高評価である“S”評価を獲得しました。研究所の研究の卓越性と優れた施設・設備を生かしつつ、5研究所間の事務連携体制の強化等、拠点ネットワークとしての体制整備や研究支援・技術支援体制、ネットワークを通じた若手育成支援の充実や学際的な研究の芽が出始め、関連コミュニティへの貢献が非常に高く評価され、拠点ネットワークのモデルケースになっています。

2022年度からは第3期となり、拠点活動の展開をさらに発展、一層活動を拡大しています。



共同研究拠点：全国の物質・デバイス領域研究者の共同、連携を主導